

# 耐寒性のつよい 早春の青刈飼料……ライ麦

麦類の中で最も寒さに強いライ麦は、北海道から九州に至るまで、田畑の裏作として広く秋播され、初冬や早春の青刈飼料として、貴重な作物です。湿地ではやや生育が悪いが、その他の所では、どこにでも旺盛に繁茂する作り易い作物です。麦類の中で最も遅く播いても、充分越冬し、しかも春の生育が早く、収量も最も多く、正に秋まき青刈の代表作物です。

在来種の他に次の優良品種があります。

だんぜん多収の

## 雪印改良ライ麦

葉や茎が大きく太く、しかも葉の量の多い雪印改良種  
耐寒性強く、初期生育、再生力旺盛で、濃緑色を呈した栄養分の多い良質の生草を豊富に生産する多収品種です。

### ライ麦の栽培要点

- 1 播種量は10 ㍏当たり7 ㍏前後、ただし寒冷地の水田裏作など生育期間の短い所では10 ㍏くらいの厚播が増収となります。
- 2 畦幅は45~70 ㍏、まき幅は15~20 ㍏の条播が良い。
- 3 実取麦より1 ヶ月早まきし、年内1度、翌春2回の刈取りもできる、この場合畦幅45 ㍏、厚まき、窒素肥料の多施が有利です。
- 4 肥料はえんぱくより多目に、とくに加里は多く与える。
- 5 2~3度刈は6~10 ㍏の高刈とし、初冬刈取りは、降雪までに10 ㍏くらいは伸しておくことも大切です。
- 6 穂が出ると急に茎が硬く、葉が枯れるから、早刈が大切です。
- 7 収量栄養分から見て、混播が有利です。(10 ㍏当たり、キロ)

|     |         |             |          |
|-----|---------|-------------|----------|
| 混播例 | ライ麦 5.0 | ライ麦 3.0     | ライ麦 3.0  |
|     | レーブ 0.5 | イタリアンライ 1.0 | えんぱく 3.0 |
|     |         | ヘアリーベッチ 6.0 |          |



## 水田裏作での

### 飼料作物



### 寒冷地

寒冷地の水田裏作として、最も安全で多収なものは、ライ麦とレーブです。ともに100日以上雪が積る地帯でも良く越冬し、充分収かくできます。東北南部のれんげの裏作できる地帯では、このほかイタリアンライ、ベッチ、かぶ、ルタバガ、えんぱくが利用されます。イタリアンライの越冬しない地方では、フィールドブroomグラスをお使い下さい。

### 暖地

#### (1) 早期田の跡

- 早刈利用 早期稲の刈取後、8月中下旬頃に直ちに飼料作物を播種、10~11月までに刈取利用する方法で、この時期はまだ暑く、台風心配もあるので、生育の早いもの風強いものが良いでしょう。とうもろこしとカウピーの混播、また紫かぶ、レーブも生育早く、年内に収かくできます。
- 連続利用 8月中下旬播きで10~3月の全期間を通じて、連続して、多収かくできるものには、イタリアンライ、ベッチ、えんぱくの3種混播があり、年内1~2回、翌春2~3回刈取れ、またかぶも冬期の多汁質飼料として貴重です。  
ラデノクロバヤや赤クロバヤも、つぎの稲作が晩期であれば更に3月中旬から1 ヶ月毎に3~4回も刈取れます。レーブも生育早く年内1回刈できます。

#### (2) 普通田の跡

10~11月播きで、翌春の5月以降、水稲作付前まで利用できます。播種期が遅いので、寒さに強いライ麦、えんぱく、れんげ、ベッチ、イタリアンライが良く利用されます。水稲の中播きも良く、またレーブの移植も適します。